

新たな売上、  
新製品開発の  
きっかけに

# 医療現場ニーズ勉強会

## 【八戸会場】

主催：青森県、(公財)21あおり産業総合支援センター 後援：(一社)日本医工ものづくりコンズ(予定)

本勉強会は、成長分野といわれるライフ（医療健康福祉）産業の振興を図るため、医療現場で活躍する医師や医療スタッフの皆様から、医療福祉機器の製品開発のアイデアとなる現場での困りごとや課題、開発を進める上で必要な医療現場の基礎知識を伺う機会です。今回、多くの開発製品を生んだ実績のある、本県の「医工連携支援のメッカ」、八戸市立市民病院において開催しますので、是非、ご参加ください。

- 日時：2019年9月12日（木）13:30～16:00
- 場所：八戸市立市民病院 2階 講堂（八戸市田向三丁目1番1号）
- 対象：医療機器メーカー、医療機器ディーラー、ものづくり企業、IT企業等

参加無料

### ●プログラム（予定）

時間	講義名	講師氏名
13時35分 ～ 16時00分  ※講師の業務都合により講義順序は前後します。	基調講演	院長 今明秀氏
	専門領域の紹介とニーズ発表	救命救急センター 医長 近藤英史氏
		救命救急センター 総合診療科 医長 坂本拓也氏
		臨床工学科 臨床工学技士 中村友哉氏
ファシリテーター	臨床工学科兼医療安全管理室 技士長 野沢義則氏	

- お申し込み 参加を希望する方は、以下の申込書に記載のうえFAX又は同内容をメールください。  
※ご参加の皆様には、「秘密保持宣誓書」をご提出いただきます。（様式は当方から後日送付）

送信先：21あおり産業総合支援センター 取引推進課 鹿内 行

FAX番号 017-721-2514 メール iryo@21aomori.or.jp

### 参加申込書 申込期限：2019年9月10日(火)

会社名・団体等			
TEL		FAX	
連絡先のE-mail			
役職	氏名	役職	氏名

### ●お問い合わせ

(公財)21あおり産業総合支援センター 取引推進課 鹿内

(電話) 017-775-3234

# 八戸市立市民病院 臨床ニーズ例

令和元年9月12日 医療現場ニーズ勉強会（青森県主催）

No	診療科	開発するデバイスの種類	デバイス開発の背景 (臨床現場の現状と問題点)
1	救命救急センター	全自動でベッドサイドに来てくれる超音波	現代医療において超音波は欠かすことのできない医療機器だが、鮮明な画像の超音波はまだ大きく、移動ができないわけではないが面倒。検査がおつうになって後回しになり、もっと超音波さえ早くすれば早期診断につながったケースは多い。よって、医師が自分で移動させる必要がなく、自動でベッドサイドまで来てくれる超音波装置があれば診療が楽になる。
2	救命救急センター	ベッドサイドモニター用超音波プローベ	現代医療において超音波は欠かすことのできない医療機器だが、鮮明な画像の超音波はまだ大きく、移動ができないわけではないが面倒。検査がおつうになって後回しになり、もっと超音波さえ早くすれば早期診断につながったケースは多い。プローベを持ちつければ、画像は患者のベッドサイドモニターに映るような超音波診断装置があれば楽に超音波検査ができる。
3	救命救急センター	24時間張り付けたままの超音波	現代医療において超音波は欠かすことのできない医療機器だが、鮮明な画像の超音波はまだ大きく、移動ができないわけではないが面倒。しかし、集中治療室では救命のために、患者に頻りに超音波検査して評価する必要がある。心臓の動きや、血管の太さ、液体貯留の程度などプローベを患者に張り付けたまま、モニターで評価できる超音波装置があればより評価がしやすくなる。
4	救命救急センター	小型全自動グラム染色&評価装置	感染症治療において、検体のグラム染色を行い起炎菌を推測して抗菌薬を開始することは、患者の救命だけでなく、耐性菌抑制のため有効である。しかし、特にグラム染色の効果を発揮する急患室では、グラム染色をする時間さえ惜しい時がある。全自動で、急患室におけるサイズでグラム染色及び評価してくれるものがあれば、診療効果がある。
5	救命救急センター	着やすいガウン、エプロン	院内感染予防のために、エプロンやガウンを着て患者の処置をすることは標準になっている。現在あるエプロンやガウンはきれいではあるが、かさばることはないが、取り出すと広げなくてはならないので着るのことが手間かかり面倒。取り出したときに、着やすいような形に広がるエプロンやガウンがあれば院内感染対策が進む。
6	救命救急センター 総合診療科	外来患者呼び出しカード	既存の患者呼び出し装置はあるが何故か普及していない。現場のニーズを把握できていない商品が多い。有用なハード、ソフトデバイスの開発が必要である。
7	救命救急センター 総合診療科	手指消毒用アルコールを白衣に	手指消毒用アルコールの持ち運びが推奨されているが浸透していない。理由は持ち運びにくいからである。新しい持ち運びの方法が欲しい。
8	救命救急センター 総合診療科	酸素飽和度測定器など	在宅で呼吸数も簡単に測りたい。
9	救命救急センター 総合診療科	超音波装置	在宅患者のNGT挿入が自宅で行えるようにしたい。X線検査以外の確認方法を。
10	診療局 臨床工学科	ワイヤレス式心電図電極	医療現場では心電図モニタリングが不可欠である。心電図ケーブルの煩わしさ、感染対策、簡易性が望まれる。
11	診療局 臨床工学科	CVブラッドアクセス処置セット	処置前には物品を個別に揃える必要があり、使用頻度が高く簡潔・スピーディーに処置を行えるパッケージ化を期待。
12	診療局 臨床工学科	NPPV用マスク	NPPV用マスクは高価で使用頻度も高く劣化してしまう。また洗浄・消毒に難渋する。衛生的に使用出来るよう安価で消毒を期待。